

---

# 男女の差

s p n y

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

男女の差

### 【Nコード】

N1565S

### 【作者名】

spny

### 【あらすじ】

コメディーのつもりW男女の考えの差を書いてみました。

## 男女の差

ガソリンスタンドの交差点を、右に……。

重機レンタル会社を右手に見て……。今日もユニボ三台。

空き地を過ぎたら、右手に入る。

「うるるかむ」本日も「喫茶すみれ」は、元気にOPEN。でも、お客は居ない、な。

あいつ一人を除いては、だけでも。

俺たちは、小学生の頃から仲が良かった。仲が良いのとはちよつと違うか。正確には一緒に居た、だな。六人でいつも騒いでは、先生を困らせ、給食の時間は必ず誰かを笑わせて牛乳を吹き出させていた。でも、学校から帰ると一緒に遊んだことは一度も無いという人呼んで「芸人グループ」の男女六人。

しかし時の流れは残酷で、高校は自然に学力差で分かれたし、結婚適齢期は女性のほうが早く来て、残ったのは三人だけ。

でも三人になってからは、プライベートでもよく遊んだ。というか、プライベートじゃないと会う機会って無くなるんだよな、大人になると。

「そうだね。付き合う?」

唐突に明美<sup>あけみ</sup>が言い出した事すらあった。まじ? まじで? 本気で言ってるの? と三回聞くと、その話は無くなったけど。

六人の中でも、俺と明美が一番仲が悪かった。あいつは、信じられないほどおちょぼ口で、下膨れでまさに平安京の人だったし、俺はハーフと疑われるほど濃い顔だ。

まあネタとしては、この二人の喧嘩が相当受けたので、グループにとっちはいいキャラだったわけだが、付き合うとなると何か相当

な飛躍が必要だったことは、お互い認めていたんだな、きっと。  
なんて話は、この際どうでも良く、主人公「勝美<sup>かつみ</sup>」の話をしなく  
ちやならない。

その主人公からのメールは、いつもどおり「反省会、反省会。す  
みれ」だけで、それだけで彼の悲しみは十二分に理解できた。そし  
てこれから始まる苦しい数時間も容易に想像できた。

「喫茶すみれ」は明美の両親がやってる店で、実に個性的だ。今  
日も葛藤の最大のポイントである、汚い水色のアメ車が、入り口近  
くの駐車スペースを占領していた。

ああ、またおやじさんもって来ちゃったんだな、と思いつつドア  
を開け、この時間だと必ず居るお母さんに会釈する。かかっている曲  
は当然のようにヨーデルで、香っているのは当然紅茶。つまり、夜に  
はアメリカンになり、昼間はヨーロッパになるという永遠の戦い  
をこの夫婦は俺の記憶があるかぎり続けている。どっちの顔も明美  
にそっくりな純和風なんだけど。

「親父さん、また車持ってきちゃったんだね」

「そうなのよー、武ちゃん<sup>たけし</sup>。あんな汚いのもって来ないでって何回  
言ってもダメなのよ」

わかっている、お母さんわかっているよ。俺もコーヒーを飲みたいけ  
どミルクティーにしておくよ。永遠にやってる、このオモロイ夫婦！

とは言わずに、美味しいティーを一つね、と笑顔で注文して、主  
人公の席に向かう。

彼の向かいに座り、何故か一輪挿しになっってるチューリップを見  
つめて見つめて見つめ倒すと、おいおい！ ヨーロレイヒーとツツ  
コミが入る。流石勝美だ、基本は外さない。

「そんな事は、どうでもいいんだよ。俺なあ、俺またなあ」

そこまで言った所で、芳醇なティーが明美によって運ばれてきた。

「振られたんでしょう？ あんたねえ、年に何回振られたら気が済  
む訳？」

と、怒られる。

確かにこいつはカッコ良い、いつも新しい彼女を連れてくる。まあ、いつも新しい所が大問題なんだが。

まあそう言わずに聞いてくれよ俺の話を、と勝美は話出した。

そりゃ俺だって、今回は頑張ったさ。デートは週三回。プレゼントも相当したし旅行にも連れて行った。お前らだって解ってるだろう？ 結構相思相愛だったんだぜ。

でも、ある日の夜に彼女が言ったんだ。

「今まで一番ドラマチックな思い出ってなに？」ってな。

俺は考えたよ。お前らに会ってからのことは、騒々しいだけで、ドラマチックなことって無かったからな。その点俺は被害者じゃないかって思うんだ。そりゃ楽しくなかったかって聞かれれば、それは違う。ある意味いい青春だったよ。でもなあ、この偏った青春が俺の情緒をだな、恋愛から一番遠い方向に導いたことは、これ事実だよ。別に恨んでる訳じゃないんだ、だけどな……。

「くどい！ 話を進めろ」

俺と明美が同時に突っ込み、勝美は仕方なく先を話した。

だからさ、俺頑張って考えて、小学校の頃ここに引っ越してきた時のことを思いついたんだよ。五年の夏だったよな確か。

こつちに来る一週間前くらいのことさ、俺あつちの学校でも放送委員だったんだよ。かなり「みんなのうた」には詳しくて、一目置かれていたんだぜ。話したっけ？ ああ、お前らもしてるか、はは。それだけじゃない、かなりクラシックにも詳しいんだぜ、インテリって自然に出ちゃうんだよな、隠そうとしてもソコハとなく香りでちゃうんだよ、このお母さんの紅茶みたいにさ。困ったもんだよ。

いや解ってる、お前らの突っ込みはいらんよもう、喧嘩してたっ  
てお前らの周波数はぴったり同調してることくらい解ってるんだ。  
いい加減お前ら付き合ったらどうなんだ？ 見てることっちが……

「うるさい！ 余計なお世話だ！」

又同時に突っ込んで、しまった！ と思ったのも二人同時だった

ほらな！ お前らってそういうことなんだよ、ははは。 マヌケカッ  
プル、マヌケカップル！

まあいいや、えーつとどこまで話ったっけか？ ああそうだ、そん  
でその転校のいよいよ一週間前だ。俺は、なにくわぬ顔で給食を持  
って放送室に籠ったさ。そうすると、人影があっただ。でも担当  
のやつと違うなと思った。男があんない香りする訳が無いんだ、  
すげえ良いシャンプーの香りさ。まあ、結構よくあるんだよ。昼休  
みに違う係とか掛け持ちだったり、病欠だったり、先生に呼ばれて  
大目玉とか、単にさぼりとかな。

で、後ろ姿見た時に焦ったよ、学校のマドンナ、当然放送部でも  
マドンナ。おれはビビりながらも席に付いたんだ。ちよつと、食器  
がガタガタ鳴ったね。

まあ、プログラム進めて、先輩とも二言三言話してさ。長めの曲  
に入ったとき、先輩が呼ぶんだ「勝美くん勝美くん」ってな。

俺は、なんの気なしに立ち上がって、はいなんですか？ って聞  
いたさ。機械の調整でも頼まれるもんだと思っただ、そしたらそれ  
が違っちゃったんだよ。いやマジで。

先輩ミキサーの前に座ったままで、突然こういったんだよ。

「あのね、勝美くん。わたし勝美くんのが好きだった。もうお  
別れだけど。でもずっと忘れないから」

って。言われちゃったんだよ。いやあ素敵な思い出だよ。

俺は一言だけ「はい」って答えたんだ。そしたら、先輩ずつと黙  
っててさ。そしたら突然又話し始めてさ。その声がちよつと震えて

たんだよ。

「ごめん、あとやっておくから。勝美くん、教室戻って」

ってね。俺も先輩泣き顔見られたくないだろうと思って、静かに出ていったんだ。そんな時のシャンプーの香り。忘れられないよ本当に。

って、な。俺、彼女の肩後ろから抱いて、話してやったんだよ。そしたら、そしたらだよ？なんでなのか、あいつ泣いててさ。突然おれの腕振り払ってさ。

「別れる。」

そのまま出てった、俺の部屋をさ。ええ？ どう思っよこれ？

「そんなの別れるにきまつてんじゃん！」

「なんで怒ったんだ？ 小学生のことじゃん！」

珍しく俺と明美の意見は別れ、勝美は折角乾いてきた瞳をまた潤ませた。

「どつちなんだよお！」

遠くから、おやじさんとお母さんの怒鳴りあいが聞こえる。

「汚い車早く片付けてったら！」

「バカヤロウ！ これから窓にウエルカムって電飾するんだ！」

了

(後書き)

三〇分で書いたんで、クソみたいなもんですwごめんなさい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1565s/>

---

男女の差

2011年10月8日19時04分発行